

展示室 1 英国水彩画特集



ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー
「サン・ゴタル峠の下り道」

学校の図工や美術の時間にチューブに入った絵具を使った経験は、誰にでもあるのではないのでしょうか。18 世紀末の英国でチューブ入りの絵具が登場するまで、絵具は画家がアトリエでその都度、自分で作るものでした。18 世紀から 19 世紀にかけての英国では、こうした画材の発展や製紙技術の進歩に後押しされながら、水彩画がひとつのジャンルとして完成されたといわれています。

ガーティンやターナーの出現で最高峰に至った英国水彩画は、やがて幕末期の日本へ伝わり、明治半ば以降に急速に広まることになりました。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
アレクサンダー・カズンズ	川岸に神殿のある風景		水彩・紙
ジョン・ロバート・カズンズ	サヴォワ地方、サランシュ付近のアルプス渓谷		水彩・紙
ポール・サンドビー	ウォーリック城シーザー塔	1778～82	水彩、ペン、インク・紙
トマス・ローランドソン	ヘント付近、ローエン駅に着く馬車	1790 代	水彩・紙
トマス・ローランドソン	北ウェールズ、カマーゼンの風景、教会へ向かう人々		1790 代初頭 水彩・紙
トマス・ガーティン	エクセター大聖堂	1798 頃	水彩・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	コニストンの荒地	1797 頃	水彩・紙
ジョン・セル・コットマン	ルアン、ラ・ビュセル広場のブルテルールド館	1823	水彩・紙
ジョン・ヴァーレー	ポントシスリット・アクアダクト	1826	水彩・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	サン・ゴタル峠の下り道	1848	水彩・紙
ピーター・デ・ヴィント	ウィットビー		水彩・紙
デイヴィッド・コックス	川辺の騎手と人物	1850	水彩、鉛筆、チョーク・紙
トマス・マイルズ・リチャードソン・ジュニア	コンウェイ城の日没	1855	水彩・紙
アルバート・グッドウィン	エンゲルベルク		ペン、水彩・紙 佐藤克也氏寄贈
サー・アルフレッド・イースト	雨後の傘干し	1889～90 頃	水彩・紙
サー・アルフレッド・イースト	村の茶店、箱根	1889～90 頃	水彩・紙
サー・アルフレッド・イースト	荒れ模様		水彩・紙
ジョン・ヴァーレー・ジュニア	雪の京都、祇園へゆく道	1891	水彩・紙
アルフレッド・ウィリアム・パーソンズ	箱根の秋		水彩・紙
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カンバーランド州のコールダーブリッジ	1810	油彩・キャンバス
サー・エドワード・コリー・バーンズ＝ジョーンズ	フローラ	1868～84	油彩・キャンバス
ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス	フローラ		油彩・キャンバス

展示室 2 日本水彩画特集



大下藤次郎「赤城駒ヶ岳の紅葉」

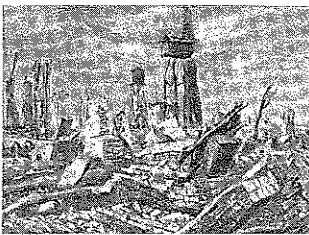
幕末にイギリスから日本にもたらされた水彩画は、明治期に美術学校や画壇で本格的に広まり、やがて一般の人々の間でも大流行しました。そのきっかけはイーストやパーソンズら、イギリス人の水彩画家たちの来日です。彼らは日本各地の風景を描き、展覧会を催して大反響を呼びました。そうした中、三宅克己をはじめ水彩を専門に手がける水彩画家が現われます。また、水彩雑誌『みづゑ』を刊行した大下藤次郎は、日本に水彩画を普及させた第一人者でした。

大正期には日本水彩画会が設立されて、風景を中心に描く水彩画家たちが活躍します。一方で、水彩画の速筆性を生かして心の動きを瞬時に捉えたり、内面性を表現する画家も現われました。

作者名	作品名	制作	技法・材質
チャールズ・ワーグマン	ふたりの日本女性		水彩・紙
チャールズ・ワーグマン	座る日本女性		水彩・紙
野崎華年	富士		水彩・絹
中山年次	日本風俗 II		水彩・絹

作者名	作品名	制作	技法・材質
ラゲーザ玉	箱根	1880 (明治 13)	水彩・紙
五百城文哉	日光		水彩・紙
三宅克己	渋谷村天現寺附近の茶屋	1893 (明治 26)	水彩・紙
三宅克己	セーヌ河畔サンジェルマンを望む		水彩・紙
大下藤次郎	蓮池		水彩・紙
大下藤次郎	赤木駒ヶ岳の紅葉	1907 (明治 40)	水彩・紙
大下藤次郎	晩秋	1908 (明治 41)	水彩・紙
大下藤次郎	舟のある風景	1906 (明治 39)	水彩・紙
大下藤次郎	春雪の茶屋		水彩・紙
大下藤次郎	「琉球」より	1912 (明治 45)	水彩・紙
河合新蔵	凌霄花のある宿場		水彩・紙
中川八郎	秋郊		水彩・紙
中川八郎	おぼろ月夜		水彩・紙
吉田 博	村里の子どもたち (岩戸)		水彩・紙
吉田 博	風景		
木村荘八	樺の見える風景	1915 (大正 4)	水彩、ペン・紙
木村荘八	中島君の像	1916 (大正 5)	水彩・紙
古賀春江	九月の朝		水彩・紙
望月省三	潮干狩		水彩・紙
中西利雄	教会のみえる風景	1930 (昭和 5) 年頃	水彩・紙

展示室3 美術とドキュメンタリー



丸樹長三郎「戦災後」

写真のなかった、あるいは普及していなかった時代、絵画や版画がその代わりをしていました。幕末から明治にかけ、大事件や天変地異などが起きた場合、報道機関は絵師、画家を現場に派遣し、その模様を作画させ、版をおこして印刷し、世間一般に広めたものです。ワグマンや芳翠の作品はその好例です。

さらに、報道性を持ちながらも、実際の報道とは切り離された絵画も現れてきます。いわゆる「ルポルタージュ絵画」と呼ばれるものです。現実を直視し、その問題点を追求し、未来への警鐘も含めて世に問う、という作品です。とくに高度経済成長期の1950年代にはそうした絵画がたくさん描かれました。

また、昨年度当館では、第2次大戦での「郡山大空襲」に関わる丸樹長三郎の作品を収蔵しました。前から収蔵していた吉井忠の作品と共に今回展示することとなりました。この3作品をとおして、改めて戦争と平和について考えていただければ幸いです。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	寄贈・寄託
● 歴史の証言				
チャールズ・ワグマン原画・柳源吉縮図				
	高輪東禅寺英國公使館旅館へ浪士亂入之圖		リトグラフ・紙	(尙)かんらん舎寄贈
山本芳翠原画・合田清刻	磐梯山噴火真図	1888(明治 21)	木口木版・紙	
牧野義雄	日本大使館から見たロンドン爆撃	1940(昭和 15)	油彩・キャンバス	
● 郡山への空				
丸樹長三郎	おろかなりし歴史	1945(昭和 20)	油彩・キャンバス	丸樹敏男氏寄贈
丸樹長三郎	戦災後	1945(昭和 20)	油彩・キャンバス	丸樹敏男氏寄贈
吉井忠	敗れたる風景	1946(昭和 21)	油彩・キャンバス	吉井忠氏寄贈
● 高度経済成長のゆがみ				
高山良策	漁夫	1958(昭和 33)	油彩・キャンバス	
高山良策	血化洞尻酢池場留	1975(昭和 50)	油彩・キャンバス	寄託作品
尾藤豊	川口鑄物	1954(昭和 29)	油彩・キャンバス	
尾藤豊	川口鑄物工場 A	1955(昭和 30)	水彩、墨、インク・紙	
尾藤豊	川口鑄物工場 B	1955(昭和 30)	水彩、墨、インク・紙	
佐藤昭一	夏期休業 (ガラス工場にて)	1953(昭和 28)	油彩・紙	
佐藤昭一	試験 A	1955(昭和 30)	油彩・紙	
中村宏	城	1956(昭和 31)	油彩・キャンバス	

作者名	作品名	制作年	技法・材質	寄贈・寄託
中村宏	射殺 Aching	1957(昭和32)	油彩・キャンバス	
鎌田正蔵	基地のある風景(A)	1991(平成3)	アクリル・キャンバス	鎌田正蔵氏寄贈

展示室4 画家と版画 (安井曾太郎を中心に)



安井曾太郎「公園風景」

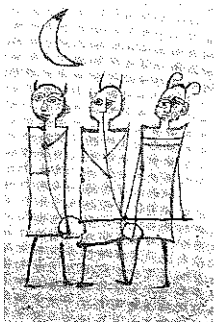
日本を代表する洋画家、安井曾太郎（1888 - 1955）の木版画は、彼が原画を描き、職人が版を彫ったものです（《椅子に凭れる女》と《果物》は平塚運一が彫ったことが知られています）。木版画にするには、不要な線を極力なくし、色数もなるべく少なくしなければなりません。そうでなければ、仕事が複雑になってしまう上、経費もかさんでしまうからです。そこで安井は、原画を描く上で「確実なるアツサン、整理された線の組立、色の効果的配置、出来るだけ簡単な表現」などに苦心しました。

木版画制作は、その後の彼の制作に役立ったばかりか、作品自体も評判を呼び、木版画というジャンルの再評価にもつながりました。

今回は、そんな安井の作品を中心に、版画にも手を染めた画家、岸田劉生、北川民次、国吉康雄の作品もあわせてごらんください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
安井曾太郎	『安井曾太郎版画集』	1932 (昭和7) -1935 (昭和10)	木版・紙/ポートフォリオ
安井曾太郎	鏡	1938 (昭和13)	エッチング・紙
安井曾太郎	少女と大このはづく	1939 (昭和14)	石版・紙
安井曾太郎	早春		水彩・紙
安井曾太郎	公園風景	1928 (昭和3)	水彩・紙
安井曾太郎	バルコニーより		水彩、鉛筆・紙
安井曾太郎	バルコニーより		水彩、鉛筆・紙
岸田劉生	群像	1915 (大正4)	鉛筆・紙
岸田劉生	天地創造 (3点1組)	1914 (大正3)	エッチング・紙
岸田劉生	The Earth	1915 (大正4)	木版・紙
岸田劉生	築地風景	1912 (大正元)	木版・紙
岸田劉生	丹絵ごのみ・麗子		木版・紙
岸田劉生	『劉生図案画集』	1921 (大正10)	木版・紙/ポートフォリオ
北川民次	横たわる恋人たち (メキシコにて)	1934 (昭和9)	グワッシュ・紙
北川民次	ざくろをもつ女	1954 (昭和29)	石版・紙
国吉康雄	無料宿泊所	1937 (昭和12)	鉛筆、パステル・紙
国吉康雄	テーブルの女	1928 (昭和3)	石版・紙

展示室4 ガラスの神様



佐藤潤四郎
「トリオ・ザ・ガラスの神様」

郡山市出身のガラス作家・佐藤潤四郎（1907～1988）の作品に登場する「ガラスの神様」。ここに並ぶタンブラーや花器の中に隠れている彼らは、時に楽しげに、時に集団化してガラスを吹いています。その姿は絶対的な力を持つ神というよりは、妖精のようでもあり、また創造という行為にインスピレーションをもたらす精霊のようでもあり、その温かみのある作風と相俟って、作者の敬虔な人となりとユーモアを感じさせます。今回はこのガラスの神様をモチーフにした絵画、ガラス作品、オブジェなどを展示します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	寄贈・寄託
佐藤潤四郎	大杯・ガラスを吹く人	1985 (昭和60)	宙吹・手描き、プランツ	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	ルーマー杯・なみなみのワインを		宙吹・グラヴェール	
佐藤潤四郎	竹に雀文ワイングラス		宙吹・グラヴェール、プランツ	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	タンブラー		型吹・他	
佐藤潤四郎	花器・灯もつけて		鍛鉄吹込	
佐藤潤四郎	灰皿		型押し	

作者名	作品名	制作年	技法・材質	寄贈・寄託
佐藤潤四郎	置物・花	1954(昭和29)頃	サンドブラスト	
佐藤潤四郎	ルーマー杯(グリーン)		宙吹・プランツ	長谷川貴子氏・石川和子氏寄贈
佐藤潤四郎	オブジェ・ガラスを吹く人		鍛鉄	
佐藤潤四郎	オブジェ・これ以上芽の出ない世界	1980~82(昭和55~57)頃	宙吹	
佐藤潤四郎	ブルー花器		宙吹	
佐藤潤四郎	オリンピックブルー硝子皿	1941(昭和16)頃	宙吹	石川謙治氏寄贈
佐藤潤四郎	花器・アダムとイヴ		宙吹・サンドブラスト	
佐藤潤四郎	オブジェ・羊車	1980~82(昭和55~57)頃	宙吹・プランツ	
佐藤潤四郎	花器・馬車に乗るガラスの神様	1973~76(昭和48~51)頃	宙吹・サンドブラスト	
佐藤潤四郎	硯屏・ガラスの神様(複製)		サンドキャスト	木村四郎氏寄贈
佐藤潤四郎	花器・穴があいてちょっと考えた	1980~82(昭和55~57)頃	宙吹・カット	
佐藤潤四郎	オブジェ・仏足跡ロータス	1984(昭和59)	エッチング	
佐藤潤四郎	ガラスの神様文瓶		宙吹・手描き・プランツ	
佐藤潤四郎	花器・何をしようか	1986(昭和61)	宙吹	
佐藤潤四郎	スタンドグラス原画スケッチ・仏足跡とガラスの神様		淡彩・紙	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	トリオ・ザ・ガラスの神様		淡彩・紙	佐藤久枝氏寄贈
佐藤淳四郎	窯場の神々1		淡彩・紙	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	スタンドグラス原画スケッチ・燭台になったガラスの神様と女神様		淡彩・紙	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	仏足跡と青い眼のガラスの神様		淡彩・紙	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	赤いガラスの神様		ガラス・レリーフ	田淵十一氏寄贈
佐藤潤四郎	硝子の女神	1982(昭和57)	ガラス・レリーフ	田淵十一氏寄贈
佐藤潤四郎	ガラス作業之図	1984(昭和59)頃	墨・紙	田淵十一氏寄贈
佐藤潤四郎	仏足跡と2人のガラスの神様		淡彩・紙	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	頭から湯気をたてるガラスの神様		淡彩・紙	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	仏の掌に乗るガラスの神様		淡彩・紙	佐藤久枝氏寄贈

ロビー展示 彫刻・他



高田博厚「アラン像」

作者名	作品名	制作年	技法・材質	寄贈・寄託
●1階展示ロビー				
アントニー・ゴームリー	子雲XXIII	2000	ステンレス、スチール棒	
アントニー・ゴームリー	領域XIII	2000	ステンレス、スチール棒	
細川宗英	装飾古墳シリーズ9	1963(昭和38)	セメント	細川明子氏寄贈
●1階サブエントランス				
笠置季男	躍進	1958(昭和33)	セメント	
●2階展示ロビー				
佐藤潤四郎	陶器で仏足跡1・2		陶器	寄託作品
佐藤潤四郎	石で仏足跡	石		寄託作品
柳原義達	女の首	1958(昭和33)	ブロンズ	
高田博厚	アラン像	1932(昭和7)	ブロンズ	
山本正道	帽子を被る男の肖像	1970~74(昭和45~49)	ブロンズ	
佐藤忠良	群馬の人	1952(昭和28)	ブロンズ	
●屋外				
バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ	

※作品は都合により一部展示替えを行うことがあります。